

特別企画：東京都内に本店を置く 23 信用金庫 預金・貸出金調査

8 割超の信用金庫が貸出金伸ばす

～ 西武信金が預金積金、貸出金ともに伸び率トップ ～

はじめに

2018年5月1日、東京都民銀行と八千代銀行、新銀行東京が合併し、新たに「きらぼし銀行」が発足した。そのほかにも九州で再編への動きが見られるなど、地方銀行を中心とする再編機運が高まっている。そうしたなか、地域企業と密着している信用金庫の動向に目を向けると、今年に入り北海道で「北海道信用金庫」が、宮崎県で「宮崎都城信用金庫」が合併により誕生しているが、東京都の信用金庫については、2006年1月に多摩中央信用金庫と八王子信用金庫、太平信用金庫の3金庫が合併し「多摩信用金庫」が発足したのを最後に合併は行われておらず、今後の再編に注目が集まっている。

帝国データバンクでは、東京都内に本店を置く23の信用金庫の、2016年3月末、2017年3月末、2018年3月末の預金積金残高、貸出金残高、自己資本比率の推移について調査した。

調査結果（要旨）

- 2018年3月末時点での東京都内に本店を置く23金庫の預金積金残高の合計は、24兆8608億600万円。前年（24兆3448億6100万円）比で2.12%増となり、23金庫中、21金庫（構成比91.3%）で増加した。
- 2018年3月末時点での23金庫の貸出金残高の合計は、13兆7463億8800万円。前年（13兆1987億900万円）比で4.15%増となり、23金庫中20金庫（構成比87.0%）で増加した。
- 2018年3月末時点での23金庫の平均自己資本比率は、9.83%。2017年3月末時点の10.03%、2016年3月末の10.35%を下回り10%を割り込んだ。

23金庫の貸出金残高（増減率順）

金庫名	貸出金残高	前期比(%)
西武信用金庫	1,661,855	14.84
東京信用金庫	640,934	9.00
東京シティ信用金庫	417,392	6.96
小松川信用金庫	76,449	6.61
芝信用金庫	507,669	6.18
青梅信用金庫	426,866	5.18
足立成和信用金庫	235,670	4.74
世田谷信用金庫	121,707	4.70
瀧野川信用金庫	311,146	4.44
朝日信用金庫	1,027,303	4.40
昭和信用金庫	185,332	2.96
目黒信用金庫	90,642	2.71
亀有信用金庫	233,458	2.54
城南信用金庫	2,196,749	2.27
東京東信用金庫	979,602	2.05
多摩信用金庫	1,033,057	1.93
西京信用金庫	358,007	1.61
さわやか信用金庫	812,034	1.29
城北信用金庫	1,202,959	1.09
東京三協信用金庫	99,743	0.56
巣鴨信用金庫	881,215	▲ 0.23
東栄信用金庫	60,130	▲ 1.49
興産信用金庫	186,469	▲ 1.68
合計	13,746,388	4.15

(単位：百万円、2018年3月末)

1. 預金積金残高 ～23 金庫合計で 24 兆 8608 億円

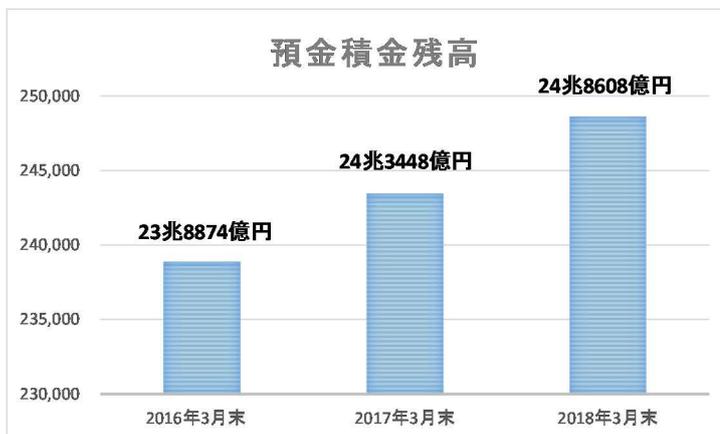
2018年3月末時点の23金庫の預金積金残高の合計は24兆8608億600万円となり、2017年3月末（24兆3448億6100万円）比で5159億4500万円増加（2.12%増）した。

23金庫中21金庫（構成比91.3%）で預金積金を伸ばすなど、全体の総預金積金残高は着実に増加している。

2018年3月末時点で、預金積金残高が1兆円を超えているのは、3兆6324億円の「城南」、2兆7027億円の「多摩」、2兆4376億円の「城北」をはじめ、「西武」「東京東」「巣鴨」「朝日」「さわやか」「芝」の9金庫。

前年に比べて最も預金積金残高の増加幅が大きかったのは、「西武」（10.64%増）。以下、「東京」（5.47%増）、「目黒」（2.61%増）と続いた。

各金庫では、利用者のニーズや資金運用の多様化に対応できるように幅広い預金商品を取り揃えている。これまでは懸賞付き定期預金や定期預金の金利アップキャンペーンなどが中心となってきたが、高齢化社会を背景に退職金定期預金や相続定期預金など時代を捉えた個人向け商品の幅が広がっている。



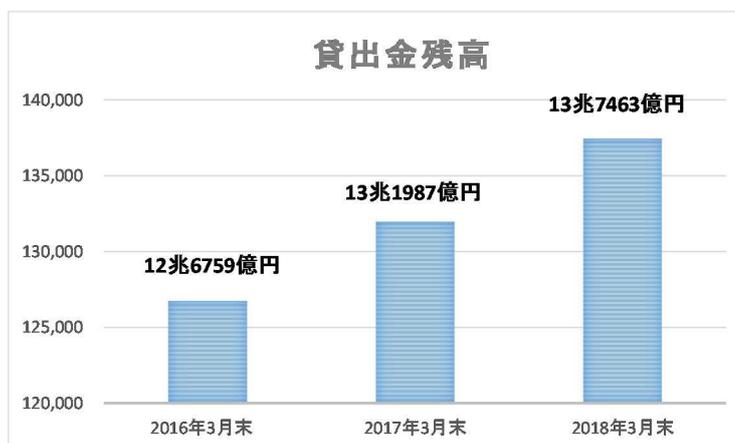
預金積金残高

金庫名	預金積金残高(単位:百万円)			前期比 (%)
	2016年3月末	2017年3月末	2018年3月末	
城南信用金庫	3,533,872	3,573,071	3,632,440	1.66
多摩信用金庫	2,560,392	2,644,221	2,702,799	2.22
城北信用金庫	2,390,911	2,416,138	2,437,670	0.89
西武信用金庫	1,643,616	1,749,021	1,935,136	10.64
東京東信用金庫	1,735,557	1,785,228	1,828,479	2.42
巣鴨信用金庫	1,706,548	1,758,492	1,778,333	1.13
朝日信用金庫	1,767,279	1,741,546	1,761,684	1.16
さわやか信用金庫	1,468,465	1,469,254	1,472,315	0.21
芝信用金庫	1,078,539	1,100,591	1,108,968	0.76
東京信用金庫	829,371	874,721	922,558	5.47
青梅信用金庫	738,804	749,133	757,475	1.11
東京シティ信用金庫	653,167	673,577	669,983	▲ 0.53
瀧野川信用金庫	648,108	646,261	653,564	1.13
西京信用金庫	620,325	626,847	633,765	1.10
亀有信用金庫	517,000	524,973	535,557	2.02
足立成和信用金庫	484,029	488,396	492,973	0.94
昭和信用金庫	404,300	405,791	410,714	1.21
興産信用金庫	329,553	333,289	333,748	0.14
世田谷信用金庫	203,963	203,600	208,198	2.26
目黒信用金庫	160,973	163,194	167,447	2.61
東京三協信用金庫	151,901	153,786	151,651	▲ 1.39
小松川信用金庫	134,744	136,121	137,207	0.80
東栄信用金庫	126,013	127,610	128,142	0.42
合計	23,887,430	24,344,861	24,860,806	2.12

2. 貸出金残高 ～23 金庫合計で 13 兆 7463 億円

2018年3月末時点の23金庫の貸出金残高の合計は13兆7463億8800万円となり、2017年3月末（13兆1987億900万円）比で5476億7900万円増加（4.15%増）した。

23金庫中20金庫（構成比87.0%）で貸出金残高を伸ばした。不動産業向け融資が伸ばしたほか、事業性融資、個人向け融資ともに積極的に取り組んでいることが貸出金の増加につながっている。



貸出金残高が1兆円を超えているのは、2兆1967億円の「城南」、1兆6618億円の「西武」、1兆2029億円の「城北」、1兆330億円の「多摩」、1兆273億円の「朝日」の5金庫。特に「西武」は、「中小企業金融円滑化法」が終了した5年前の2013年3月末（9940億9700万円）から6677億5800万円増加（67.2%増）するなど大きな伸びをみせている。

前期比で最も増加率が大きかったのは、「西武」（14.84%増）で23信金中唯一2ケタの伸びとなった。以下、「東京」（9.00%増）、「東京シティ」（6.96%増）が続いた。「西武」は店舗数増加のほか、窓口営業を17時までに行っていることや経営課題解決のためのコンサルタント機能が充実していることが預金・貸出金大幅増の要因となっていることが考えられる。一方で増加率マイナスとなったのは「興産」（1.68%減）、「東栄」（1.49%減）、「巣鴨」（0.23%減）の3金庫。

貸出金残高

金庫名	貸出金残高(単位:百万円)			前期比 (%)
	2016年3月末	2017年3月末	2018年3月末	
城南信用金庫	2,117,499	2,147,954	2,196,749	2.27
西武信用金庫	1,250,046	1,447,097	1,661,855	14.84
城北信用金庫	1,148,655	1,189,975	1,202,959	1.09
多摩信用金庫	1,004,010	1,013,469	1,033,057	1.93
朝日信用金庫	945,134	983,982	1,027,303	4.40
東京東信用金庫	919,791	959,945	979,602	2.05
巣鴨信用金庫	859,510	883,282	881,215	▲0.23
さわやか信用金庫	822,119	801,728	812,034	1.29
東京信用金庫	532,228	588,005	640,934	9.00
芝信用金庫	455,750	478,142	507,669	6.18
青梅信用金庫	386,938	405,862	426,866	5.18
東京シティ信用金庫	374,927	390,249	417,392	6.96
西京信用金庫	349,513	352,350	358,007	1.61
瀧野川信用金庫	296,581	297,919	311,146	4.44
足立成和信用金庫	209,024	225,002	235,670	4.74
亀有信用金庫	223,032	227,679	233,458	2.54
興産信用金庫	181,963	189,646	186,469	▲1.68
昭和信用金庫	175,735	180,002	185,332	2.96
世田谷信用金庫	113,048	116,241	121,707	4.70
東京三協信用金庫	94,777	99,184	99,743	0.56
目黒信用金庫	88,668	88,247	90,642	2.71
小松川信用金庫	69,316	71,709	76,449	6.61
東栄信用金庫	57,643	61,040	60,130	▲1.49
合計	12,675,907	13,198,709	13,746,388	4.15

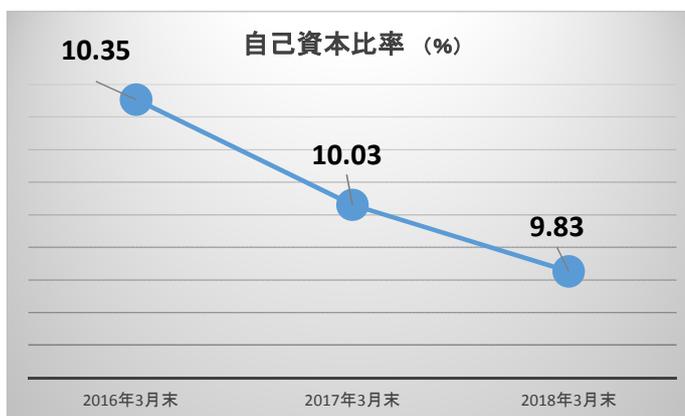
3. 自己資本比率 ～平均 9.83%と 10%割れ

23 金庫の平均自己資本比率を見ると、2016 年 3 月末 10.35%→2017 年 3 月末 10.03%→2018 年 3 月末 9.83%と 10%を割り、右肩下がりの推移となった。

2018 年 3 月末時点で 23 金庫中、最も自己資本比率が高かったのは「亀有」の 18.00%。次いで「東栄」の 12.21%、「芝」の 11.16%となり、自己資本比率が 10%を上回っているのは 23 金庫中 8 金庫だった。

前期比で最も増加率が大きかったのは「東栄」(0.23 ポイント増)。そのほか増加したのは「興産」「瀧野川」「西武」「西京」「東京三協」の 6 金庫にとどまった。

低金利政策が長期化するなか、経営の健全性確保に苦慮している様子がうかがえるものの、自己資本比率は全 23 金庫で国内基準の 4%を上回った。



自己資本比率

金庫名	自己資本比率			前年比 (ポイント)
	2016年3月末	2017年3月末	2018年3月末	
亀有信用金庫	18.80	18.38	18.00	▲ 0.38
東栄信用金庫	11.50	11.98	12.21	0.23
芝信用金庫	12.67	11.89	11.16	▲ 0.73
東京東信用金庫	11.79	11.42	11.02	▲ 0.40
巢鴨信用金庫	11.15	10.76	10.50	▲ 0.26
瀧野川信用金庫	11.93	10.21	10.33	0.12
目黒信用金庫	10.44	10.34	10.23	▲ 0.11
小松川信用金庫	11.19	10.92	10.14	▲ 0.78
昭和信用金庫	9.98	9.94	9.92	▲ 0.02
城南信用金庫	10.41	10.07	9.74	▲ 0.33
青梅信用金庫	10.10	10.05	9.73	▲ 0.32
西京信用金庫	9.35	9.51	9.61	0.10
西武信用金庫	10.06	9.20	9.31	0.11
朝日信用金庫	9.27	9.20	9.05	▲ 0.15
興産信用金庫	9.10	8.87	9.01	0.14
足立成和信用金庫	10.24	9.51	8.98	▲ 0.53
東京三協信用金庫	9.42	8.93	8.98	0.05
多摩信用金庫	8.63	8.37	8.36	▲ 0.01
東京信用金庫	8.26	8.28	8.07	▲ 0.21
東京シティ信用金庫	8.75	8.59	8.05	▲ 0.54
世田谷信用金庫	8.49	8.33	7.96	▲ 0.37
城北信用金庫	8.55	8.12	7.83	▲ 0.29
さわやか信用金庫	8.04	7.84	7.81	▲ 0.03
平均	10.35	10.03	9.83	▲ 0.20

4. まとめ

信用金庫は、主な取引先が営業エリアの中小企業や個人事業者、地域住民であり、地域経済を支える役割を果たしている。大手行・地銀・第二地銀(主要 112 行)の 2017 年 3 月末→2018 年 3 月末の総貸出金の増加率は 1.2% (帝国データバンク：国内主要 112 行の預金・貸出金等実態調査)に対し東京都内に本店を置く 23 信用金庫の総貸出金残高は、23 金庫中 20 金庫で貸出金残高を伸ばし、増加率 4.15%と主要 112 行平均を大きく上回った。

中小企業金融円滑化法が終了した 5 年前の 2013 年 3 月末では、前年比で貸出金残高を伸ばした金庫が 21 金庫中 8 金庫にとどまっていたことを鑑みると、東京都における資金需要は 2020 年東京オリンピックに向けて建設業や不動産業を中心に活発化していることが大きく影響しているとみられる。また、現在も引き続き主要取引先である中小企業に対して積極的な融資姿勢にあることも同様に影響している。

日銀は 7 月に現行の金融緩和策を一部修正し、0.2%程度まで長期金利の上昇を容認する意向を示した。低金利政策の長期化に伴う金融機関の経営悪化などの副作用に配慮したかたちだ。また、金融庁長官が森信親氏から遠藤俊英氏へ引き継がれた。基本路線は継承するとの見方が大半だが、金融機関の再編など、ここにきて動きが出てきているものもある。金融機関の再編は地方の地銀・第二地銀に目が向けられがちだが、都内の 3 行が合併して「きらぼし銀行」が誕生したように、23 区内に本店を置く信用金庫においても再編の動向が注目される。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 東京支社情報部 担当:森山・高田
TEL 03-5919-9342 FAX 03-5919-9348

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

【参考】

東京都内に本店を置く23金庫

金庫名	本店所在地	店舗数
朝日信用金庫	台東区	66 ※
興産信用金庫	千代田区	20
さわやか信用金庫	港区	66 ※
東京シティ信用金庫	中央区	30
芝信用金庫	港区	52 ※
東京東信用金庫	墨田区	68
東栄信用金庫	葛飾区	11 ※
亀有信用金庫	葛飾区	23
小松川信用金庫	江戸川区	10
足立成和信用金庫	足立区	24
東京三協信用金庫	新宿区	12
西京信用金庫	新宿区	29 ※
西武信用金庫	中野区	74
城南信用金庫	品川区	85
昭和信用金庫	世田谷区	20 ※
目黒信用金庫	目黒区	11
世田谷信用金庫	世田谷区	14
東京信用金庫	豊島区	30
城北信用金庫	荒川区	95 ※
瀧野川信用金庫	北区	30 ※
巢鴨信用金庫	豊島区	42
青梅信用金庫	青梅市	37
多摩信用金庫	立川市	79

※出張所含む

総資金利鞘

金庫名	総資金利鞘		
	2016年3月末	2017年3月末	2018年3月末
西武信用金庫	0.37	0.41	0.55
東京信用金庫	0.34	0.32	0.35
青梅信用金庫	0.22	0.24	0.25
朝日信用金庫	0.13	0.14	0.23
城北信用金庫	0.28	0.20	0.22
西京信用金庫	0.20	0.19	0.20
多摩信用金庫	0.13	0.16	0.18
東栄信用金庫	0.21	0.19	0.17
瀧野川信用金庫	0.24	0.17	0.17
東京シティ信用金庫	0.23	0.13	0.16
小松川信用金庫	0.15	0.22	0.13
芝信用金庫	0.09	0.07	0.10
東京三協信用金庫	0.07	0.05	0.09
城南信用金庫	0.08	0.09	0.07
亀有信用金庫	0.18	0.11	0.06
目黒信用金庫	0.09	0.05	0.06
興産信用金庫	0.11	0.05	0.05
昭和信用金庫	0.08	0.06	0.05
巢鴨信用金庫	0.11	0.09	0.05
東京東信用金庫	0.23	0.01	0.03
足立成和信用金庫	▲ 0.05	▲ 0.08	0.00
世田谷信用金庫	▲ 0.02	▲ 0.01	0.00
さわやか信用金庫	0.00	▲ 0.02	▲ 0.03
平均	0.15	0.12	0.14